

過去に手術を受けられた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年12月22日制定、平成29年2月28日一部改正。文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] TOFcuffによるTOFcntとPTCに基づく筋弛緩度指標とPKモデルの検討

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 菅原友道 集中治療部 病院助教

[研究の目的]

全身麻酔を受ける方は、手術中に様々な困難に直面することがあります。それは例えば大量出血であったり、予期せぬ長時間手術であったりします。その間患者さんの全身状態の管理は麻酔科医に委ねられています。麻酔科医はそういった困難を解決するのは勿論の事、ベースとなる麻酔を維持することで手術中の覚醒を防いだり、痛みを抑制したりするような管理を行い、絶え間ない管理を並行して行わなければなりません。

特定の技術を必要とする局面に集中するために、単純化できる部分を自動化する、という考え方があります。これを麻酔に当てはめると、「筋弛緩薬の投与」が該当します。筋弛緩薬は手術中に体が動くことを抑制し、手術を安全に施行するために投与されます。私たちは将来的に自動化されると考えられている筋弛緩薬の自動投与についての研究を始めようとしています。その最初の段階として、どれくらいの量の筋弛緩薬を投与すると、どれくらいの筋弛緩効果が得られるのかを調査します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2017年4月1日から2017年12月31日の間に当院で全身麻酔を受け手術をされた方

○利用する検体・診療情報

診療情報：手術中に使用した筋弛緩薬の時間、量の情報を使用します。また、筋弛緩薬がどれくらい効いているのかをモニタリングする装置から得られる情報を使用します。

[外部への検体・診療情報の提供]

ありません

[外部からの検体・診療情報の提供]

ありません

[研究組織]

香川大学医学部附属病院

[研究代表者]

香川大学医学部附属病院 集中治療部 菅原友道

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院集中治療部 担当医師 菅原友道

電話 087-891-2223 FAX 087-891-2224